

2011年(平成23)11月

カルメル  
靈性センターニュース



2011年11月

270号

## 目次

### 特集

教皇ベネディクト十六世の

257 回目の一般謁見演説(2) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 5

年間購読のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 2

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 3

# 特 集

## 教皇ベネディクト十六世の 257 回目的一般謁見演説（2）

2011年2月2日（水）午前10時30分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の257回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、「教会博士」に関する新しい連続講話を開始し、その第1回として、「アビラの聖テレサ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.2.3）

※ 霊性センターニュース10月号～12月号連載中です。

（前号からの続き）

内的成熟と並行して、聖女はカルメル会の改革の理念を具体化し始めました。1562年、テレサはアビラの司教アルバロ・デ・メンドサ（Alvaro de Mendoza）の支援を得て、最初の改革カルメル会修道院をアビラに創立しました。その後間もなく、カルメル会総長ジョヴァンニ・バッティスタ・ロッシ（Giovanni Battista Rossi）の認可も受けました。その後の数年間、テレサは計17の新しいカルメル会修道院を設立し続けました。十字架の聖ヨハネ（Juan de la Cruz 1542—1591年）との出会いは根本的に重要です。テレサは十字架の聖ヨハネとともに1568年にアビラ近郊のドゥルエロに最初の跣足カルメル会修道院を創立しました。1580年、テレサはローマから改革カルメル会のための免属管区を設立する認可を得ました。これが跣足カルメル会の出発点となります。

テレサは地上の生涯をこうした設立活動を行っている最中に終えます。実際、彼女は、1582年にブルゴスのカルメル会修道院を設立した後、アビラに帰る途中の10月15日、アルバ・デ・トルメス修道院で亡くなりました。つつましく次の二つのことばを繰り返しながら。「ついにわたしは教会の娘として死にます」。「わが花婿よ、今こそ御身とまみえる時です」。彼女はその生涯をスペイン全体だけでなく、教会全体のためにささげ尽くしました。テレサは1614年、教皇パウロ5世（在位1605—1621年）により列福され、1622年、グレゴリウス15世（在位1621—1623年）により列聖され、1970年、神のしもべパウロ6世により「教会博士」とされました。

イエスのテレサは学問的教育を受けませんでした。神学者、知識人、靈的師父の教えをつねに用いました。著述家としてのテレサはつねに自分自身に起こったこと、ないし人の経験のうちに見たことに従います（『完徳の道』：Camino de perfeccion, prologo 参照）。すなわち経験から出発します。テレサは多くの聖人、とくに十字架の聖ヨハネと靈的交友関係を結ぶことができました。同時に彼女は、聖ヒエロニムス（Eusebius Hieronymus 347－419／420年）、聖グレゴリウス・マグヌス（Gregorius Magnus 540頃－604年、教皇在位590－没年）、聖アウグスティヌスといった教父を読むことによって養われました。

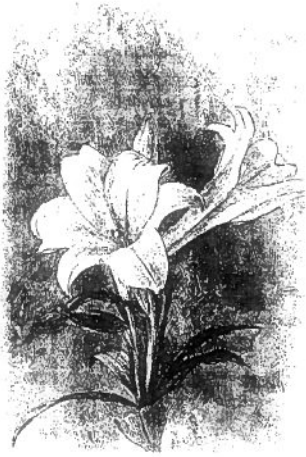
著作の中でもっとも注目すべきなのは、『神の憐れみの人生』（Libro de las misericordias de Dios）とも呼ばれる『自叙伝』（Libro de la vida）です。1565年にアビラのカルメル会修道院で著されたこの書物は、彼女の生涯と靈的歩みを振り返ります。それはテレサ自身が述べるとおり、自らの靈魂を「靈的教師」の聖ファン・デ・アビラ（Juan de Avila 1499／1500－1569年）に識別してもらうために書かれました。同書の目的は、自分の生涯におけるあわれみ深い神の現存と働きを示すことです。そのため、この著作ではしばしば主との祈りの対話が述べられます。本書を読むと心を捕らえられます。なぜなら、聖女は神との関係の深い体験を単に語るだけでなく、自分がそれをあらためて体験していることを示すからです。

1566年、テレサは『完徳の道』（Camino de perfeccion）を著しました。テレサは本書を『イエスのテレサが自分の修道女に宛てた勸告と助言』と呼びました。彼女が本書を書き送ったのは、アビラのカルメル会サン・ホセ修道院の12人の修練女です。テレサはこの修練女たちに、教会に奉仕するための観想生活の厳しい計画を示します。観想生活の基盤は、福音的な徳と祈りです。もっとも貴重な箇所は、祈りの模範である「主の祈り」の解説です。

聖テレサのもっとも有名な神秘的著作は、1577年、彼女が円熟した時期に書かれた、『靈魂の城』（Las moradas o Castillo interior）です。

（次号に続きます）

# 心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI  
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十一章 心の痛悔

5 死を思う

どれほど長生きできるかを考えるよりも、いつ死ぬかを考えれば、あなたはもっと熱心に欠点を改めようと努めるであろう。もしあなたが、未来の地獄や煉獄の罰を深く黙想するなら、今の苦勞と患難とを甘んじて耐え忍び、この世のどんな苦しみも恐れなくなるだろうと私は思う。しかしそれらのことに関心をもたないで、今も世俗の楽しみに引かれ、冷淡で、徳に進もうとしないのである。

私たちのみじめな肉体が、ほんのわずかなことで悲鳴をあげるのは、先に言った精神が欠けているからである。だから、心の痛悔を与えてくださるようへりくだって主に祈り、預言者と共にこう言おう。「主よ、涙にぬれたパンで私を養い、あふれる涙を私に飲ませてください」（詩編 80・6）と。



初聖体のエリザベツト

天国は父の家です。  
私たちの天国への帰還は  
ちょうど愛されている子が  
しばしの流たくの後  
家に帰るのを待ちわびられているようなものです。  
その旅路の伴侶を ほかならぬ主ご自身が  
引き受けてくださいます。  
心の中でその主とともに生きてください。  
主の現存のうちに潜心してください。\*  
—三位一体のエリザベツト—

このページをくる頃は、いくらか秋の訪れが感じられるでしょうか。諸聖人の祝日ではじまる11月は教会では「死者の月」とされ、今は亡き家族の者、知人、友人、特に今年は3・11で亡くなられた方々とそのご家族を特別に祈りのうちに思い起こします。そして、毎日の典礼では週末に関する朗読が続き、教会暦は年末となり、待降節を迎えることとなります。

そのような節目の月にあたって、「死」とは誰もが例外なく100%の確立で迎える出来事である以上、「その時」に備える日々としたいものです。

三位一体のエリザベツトは初聖体の日に「あなたの名は、このよき日に成就する神秘を秘めています。あなたの心は地上において<愛である神の家>エリザベツトです」と明かされました。それ以降、彼女は子供ながらも神が自分のうちに住まわれている神秘を深め体験してゆきました。

主は常に私のうちにおられ、昼も夜も心と心をひとつにして生きておられます。永遠への準備をしましょう。主とともに生きましょう。主のみがこの大きな移行に際して、私たちに付き添い助けてくださることができるのですから。\*

エリザベツトは、死者を「至福直感の光のうちに神の栄光を受けている人々」と言っています。彼女の関心は、その人々を満たしている同じ方が私のうちにもおられるという事実、神の現存です。死者の月にあたり、神の現存を實踐して、すでに亡くなった方々のために祈り、かつ「決定的瞬間」である自分の死に備える日々といたしましょう。

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『神はわたしのうちに わたしは神のうちに』聖母文庫

## エデンの園(11)

くのり 彰

市田ひろみさんの「エデンの園」という詩を紹介していたが、詩の続きは次のようになっている。

そしてもう  
よみがえることはないのよ  
神の声に 耳をかたむけることが  
あまりにも 少なかったのよ  
みんな 自分のことばかり  
                    考えていたのよ

森は 木の葉がなくなって  
枯れた樹が 鉄条網の  
                    ようにつづくのよ  
もちろん 小鳥たちの  
                    さえずりは 聞こえなくなって  
きたきつねねも  
            あほうどりも  
                    うさぎも  
みんな 死んでしまったのよ

この詩の紹介を始めたのは、昨年(2011年)の10月であった。今年になって3月11日に、東日本大震災があった。予想を越える大津波。目を覆うような惨状。福島第一原発の事故。それは、「そしてもう よみがえることはないのよ」といった悲惨な事態、死と化した地球を先取りしている。

実際、放射能汚染のために避難を余儀なくされた人々が、全員、故郷へもどれるのは、いつの日のことであろうか。生きている内にもどれない人も大勢出てくるのではないか。また除染作業や復興作業の中で、どれだけの人がどれほどの被爆をするのか、だれが知っているのだろう。廃炉にできたとしても、その土地を再び安全に使えるまで、気の遠くなるような歳月を必要とするということも、以前、読んだ記憶がある。

原発の事故ばかりではない、世界大戦が起こり、核兵器が使われるならば、「もうよみがえることはない」地球は、またたくまに実現されるのだ。



# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（148）



## 聖人の庭

教会は、とても人間的な組織ですが、神の恵みの庭でもあります。それは、偉大な聖性の花が咲き続ける場所です。聖人とは、生きたキリストを特別な仕方で私たちに目に見えるものとしてくれる人々です。ある聖人たちは、キリストや教会への奉仕の内に生涯をささげました。他の聖人たちは、私たちが養育してくれる言葉を話したり、書いたりしました。ある聖人たちは、困難な状況の中で英雄的に生きました。他の聖人たちは、祈りや黙想の静かな生活の中で隠れたままでとどまりました。ある聖人たちは、刷新を呼びかける預言的な声となりました。他の聖人たちは、大きな組織や人々のネットワークを立ち上げる霊的な戦略家でした。ある聖人たちは健康で強く、他の聖人たちはまったく病気で、しばしば心配性で不安です。

けれども彼らは皆、彼ら自身のやり方で、ちょうど彼らを「愛する者よ」と呼ぶ声を聞いた庭の中のように、また彼らがイエスを彼らの生活の中心とするための勇気を見出していた庭の中のように、教会の中に生きていました。  
(1022)

## 聖人とは、私たちのような人々

洗礼によって私たちは、生物学的な家族よりずっと大きな家族の一部となります。それは、闇の中で光となるように、神によって「別にされた」人々の家族です。これらの別にされた人々が、いわゆる聖人たちです。私たちは聖人たちを聖なる敬虔なる人々と考えがちです。また彼らの姿を頭の上に光輪のある、恍惚のまなざしをした人々として描きがちですが、真実の聖人は、私たちがもっと近づきやすい人々なのです。彼らは私たちのような男性や女性であり、普通の生活を送り、普通の問題と格闘していたのです。彼らを聖人としているのは、神や神の人々の上に、はっきりしたゆるぎないまなざしを注いでいたことです。彼らの生活のいくつかは、私たちとはまったく異なっているように見えるかもしれませんが、大半の聖人たちの生活は、私たちの生活ととても似ているのです。

聖人は、私たちの兄弟姉妹であり、彼らのようになるように私たちに招いているのです。  
(1110)

(九里 彰訳)

「だから、目を覚ましていなさい」(マタイ 25, 13)。

福音では、これに続けて、「あなたがたは、その日、その時を知らないのだから」とあります。しかし、腑に落ちないことは、乙女たち全員が、賢い者も愚かな者も「眠り込んでしまった」、「目を覚ましている」ことができなかつたのではありませんか。乙女を二つの群れに分けたのは、目を覚ましていたか、そうではなかつたか、ではないのです。それでは、この賢いと愚かを分けたものは、何なのでしょう。か。「壺に油を入れて持っていた」、この事実のようです。賢い乙女たちは、「寝込んでしまう」前に、「壺に油を入れていた」、いったん、寝込んでしまった後では、どんなに善意に溢れている人に頼ろうとも、どのようにしても修復できない厳粛な事実がある。さて、「眠る」、この言葉は、聖書の中でも、死ぬことと同意語として使われることが多いのです。すべての生きし生けるものは、死ぬ運命にあります。賢い者も、愚かな者も、聖人も、罪人も、すべてが死を迎えます。実は、死に関係する一つの疑問が、初期教会にはありました。西暦五十年ごろに書かれた使徒パウロのテサロニケへの第一の手紙にはっきりと現れてきています(参照1テサロニケ4, 13以降)。当時の信仰者の間には、大変強い主の再臨待望があり、そのとき救いは完成し、神の栄光、神の国の中に自分たちは取り上げられると期待していました。しかし、主の再臨は、彼らが想像していたように早急には起こりませんでした。その間に、信仰者の中にも死ぬ人たちが出始めました。そのとき、必然的に、信仰を動揺させるような問題が降りかかってきます。主の再臨は遅れている、それでは、その前に眠りについて人たちはどうなるのか。これが彼らを悩ませていた疑問でした。パウロは言います、決定的なことは、生理的に生きているか、死んでいるかではない、「生も、死も」、主と共にする、この決断を生きている間にすることである。そして、主の言葉に導かれて、生も死も受け入れる、これが生命線なのだ。「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです」(コ-マ14, 8)。「壺の油」とは、この生も死も主と共にする決意と態度に他なりません。この決断は、地上の命に生きている間にしかできないのです。それほど、今と言える時は大切な時です。「はっきりしておく。わたしはお前たちを知らない」。「知る」とは、認知の問題を超えて、人格的な交わりを意味しています。主イエスとの人格の交流から除外されるか、いなかは、今日の命で主との交わりに目覚めて生きる決断に掛かっています。ルカ渡辺幹夫

## 年間第 33 主日 (A)

“忠実でありなさい—タラントンのたとえ” (マタイ 25 : 14—30)

今日の福音の中で、主イエスは、将来起ること、この世の終わりについて語っておられます。主は、今、私たちがこの真理に心を留め、特に私たちが主の御前で清算する日、即ち主が再び来られる大いなる日のための備えが出来ているように望んでおられます。

14 節、15 節で始まる福音のメッセージを見てみましょう。3 人の僕たち各々に託された財産の額は主人の信頼、委託を表しているようです。イエスは、神が神の国の建設のために必要な物を神の民すべての個人的な財産として供給して下さること、私たち皆がそれをこの目的のために用いるように神からの期待されていること、神は最後の日にその成果を清算なさること、を私たちに思い起こさせてくださいます。イエスの時代、裕福な主人は度々長い旅に出かけました。その間主人は会計士を任命し、その財産管理と資産運用を任せました。

この福音の”タラントン“は、主人がいない間の資産の管理、運用を計り、さらに利益を上げるためにその僕に託された主人の財産の額です。当然、彼らは忠実に働けば主人から褒美をいただくでしょう。それは彼の家族全体の金銭的な富を増やすこととなり、彼らの利益にもなります。しかし最終的には、これらタラントンの使い方を記した備忘録は主人の領地を広げるために役立つのです。この様にして、主人がいない間僕たちは主人の信頼と委託を活用するのです。初めは彼ら自身のために、最後には主人の利益のために。

多分皆さんは神から与えられた財産を、神の国を築くために使いたいと思っていらっしゃるでしょう。人々への宣教に役立てたいと思われませんか？教会またはその他の場所での神の国の発展のために使いたいですか？もし私たちが主イエス キリストに対して、真の愛と忠実さを持っているなら、必ず行動に表す筈です。このたとえの 3 人目の僕は預けられたタラントンを土の中に埋めて置いたままにして、何もしませんでした。キリストに対しての真の忠実さが全く無いことがわかります。J.C.Ryle は言っています。”このたとえを神の恵みによる荘厳な決意を持って、心に留めましょう。実践を伴わないキリスト教の職務に決して満足しないように。宗教について語るだけではなく、行いなさい。キリストへの信仰を深めることの大切さを感じるだけではなく、同時に何かを行いなさい。”あの役に立たない僕は、殺人者でも強盗でも主人の財産を浪費した者でもありません。唯、彼は何もしなかったのです。それが彼の破滅となりました。さあ、私たちの生活を通して、言葉と行いによって、私たちの主イエス キリストへの愛と忠実を表しましょう。

祈りましょう。神なる主よ、お願いいたします。あなたが再びこの世に来られる日に備えある私たちを見出して下さいますように。私たちは、今、あなたを愛し、今、あなたの民を愛し、遠く離れている全ての人々に対するあなたの愛を明らかにいたしましたから。アーメン。

(Sr. Paulina)

「わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい」(マタイ 25, 34)。

「王であるキリスト」の祭日には、「マタイによる福音」による審判の場面が読まれます。「人の子は、栄光に輝いて、その栄光の座につく。そして、すべての国の民がその前に集められる」。そして、羊を、後に祝福された者たちと宣言される者たちを右に、山羊を左に置く。右と左、決して交わることのない二つの群れに分かたれる、これほど重大な峻別の基準はなんでしょうか、ただ一つ、それぞれが憐れみの行いを実践した、あるいは、しなかったことによる、他の何ものでもないのです。「飢えていたとき食べさせ、喉が渴いていたとき飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた」。しかし、わたしたち自身の胸に手を置いて振り返ってみるとき、このような行いを実践したこともあるでしょう、がしかし、無視したときも、気付かないふりをしてやり過ごしたときもあったのではないか、いや、むしろ、このような場合の方が多かったのではないか。誰が、いつも、憐れみを実践してきたと、胸を張って断言できるのでしょうか。むしろ、憐れみ、愛することに無力であった、と自分の実像を告白せざるをえないでしょう。そうすると、「祝福された者たち」、それは、現実のわたしたちには到底手が届かない、絵空事に終わってしまうのではないか。確かに、愛する力量がわたしたちに自然的に備わっているわけでない。むしろ、わたしたちは、貧しい者、力ない者、弱い者を軽視し、彼らを搾取する傾向にあるのです。その明らかなしるしは、十字架の上に死んでゆかれるイエスを、「人の子」、審判する能力を備えた方、救い主と認めることへの躊躇であり、わたしたち自身が苦しいとき、飢えているとき、病気のとき、牢に入れられるとき、十字架の主が救い主として共にいてくださると確信ができない困難です。隣人、特に自分にとって荷物となる人を愛し、彼らに奉仕する意欲は、どこから来るのか。この愛と奉仕には無力、嫌悪を感じさせるわたしたちのうちに住み着いている罪を認め、この罪の支配力からの解放を懇願するとき、「世の罪を取り除く神の子羊」、イエスから赦しと共に与えられる以外に道はない。このイエスへの信仰によって、赦しの中に入れていただき、「愛の実践を伴う信仰」に生きようになれるのです。「今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です」(ロ-マ 6, 28)。

ルカ 渡辺幹夫

待降節第1主日 (A)

「気をつけて目覚めていなさい。」 マルコ13:33-37

待降節が始まる時、主は何を私たちに期待しておられるでしょうか、私たちは期待に応えるための準備ができていますでしょうか？ 主イエスは彼の弟子たちが聞きなれている話を語りました——主人が旅から帰ってきたとき労働者たちは、すぐ働き、最善をつくす準備をしている必要があるということです。この召使たちは主人が戻ってくるのを大喜びしましたか、それとも心配でしたか？ 目覚めていた召使たちは、自分たちの主人が不寝番や勤勉なのを喜び報酬を出すことを知っていたので楽しみに待ちました。しかし、不注意や怠惰なために準備をしていない人々には災難と報復が待ち受けていました。

神は神を待っている人々に確かに報われると預言者イザヤは私たちに語っています：「あなたを待つ者に計らってくださる方は神よ、あなたのほかにはありません。昔から、ほかに聞いた者も耳にした者も目にした者もありません」(イザヤ64:3)。私たちの主イエス・キリストは私たちに彼の贈り物と恵みを委ねてください、働くように準備し、未来に向けて用意するように期待しています。私たちの召し出しは信じるだけでなく目覚めていること、愛するだけでなく目覚めていること、従うだけでなく目覚めていることです。何のために目覚めているべきでしょうか？ 来るべき最大の出来事—人生の終わりに再び栄光のうちに来られる私たちの主なるイエス・キリストの再来です。私たちの主が心に留める目覚めとは、これから起こることを受動的に待つという人生の態度ではありません。主は私たちに不寝番と「み国が来ますように」、「み旨が天に行われるように地にも行われますように」と積極的に祈ることを促しておられます。私たちはキリストのために目覚めているのではなく、キリストといっしょに目覚めているべきです。主は私たちが心と精神を彼と彼の言葉に集中することを望まれます。私たちの生活と世界の中で主の働きと恵みに準備しているように望まれます。主を「待つ」人は、失望することはありません。主は必ず恵みと助けとともに来られます。あなたは期待する信仰と喜びの希望をもってあなたの生活の中に主の働きを目覚めて待ちますか？

主な一つのポイント

目覚めて、自分の義務を果たしなさい。イエスは私たち各々に担わせたことを完全に行うことで主の再来に対して目覚めているように全ての人に警告しています。

黙想

1. 主が私に担わせている義務は何でしょうか？
2. 私は主が私に割り当てた義務を行っているでしょうか、それとも自分自身の意志を行っているでしょうか？
3. 門番が一日24時間見張りをしなければならなかったら、私は主のために私の義務をどれほど完全に果たすように求められているでしょうか？

「主よ、あなたの言葉を受け取り、あなたの再来に対して準備するように私の心を目覚めさせてください。自己満足や、罪と世俗の束縛、過ぎ去るものへの執着から解き放ってください。いつも熱心にあなたの言葉を受け取り、あなたが再び来られるときあなたにお会いする準備ができていますように。アーメン」

「皆様にとって恵み豊かな待降節でありますように。」

(Sr. Paulina)

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (52)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### トレドとクウェルヴァ

1590年、ヨハネ修士は修道会の第二回日の総会議のために、セゴヴィアからマドリッドに着きました。この集会は、7月の中旬に終わりました。セゴヴィアにもどる前に、彼はトレドへ旅をし、そこからヘスス・マリアのアンドレス神父に伴われ、クウェルバに向かって進みました。

美しい場所に着いた時、ヨハネ修士は、同伴者に向かって言いました。「しばらくここでゆっくりしましょう」。それから「彼は、同伴者を馬と共に残し、一人で前の茂みの中へと入って行きました」、このような場合の常として、彼は祈り始めたのです。すでにかなり時間がたち、ヨハネ修士が現れず、日が沈み始めているのを見て、アンドレス神父は、彼を探しに、山の中へ入って行きました。そして祈りの中に没頭し、いわゆる「忘我の状態」にいる神父を見出しました。彼の祈りを見守るように、またしばらく待ち、祈りが終わるやいなや、彼らは旅を再開しました。

### 私は料理係でもあった

ある日、十字架のヨハネ修士は、グラナダの跣足女子カルメル会の面会室にいました。院長は、文学的な観点からすれば、もっとも幸運な女性たちのひとりである有名なアナ・デ・ヘススでした。彼女にルイス・デ・レオン修士はヨブ記の注解書を、十字架の聖ヨハネは『霊の賛歌』を献呈したのですから。聖人の崇拜者（訳注：院長のこと）は、面会室に居合わせた、外から来ている他の人々の前で彼を讃え始めました。彼の長所や、カルメル会のさまざまな修道院において彼がどのような長上であったかを話していました。ヨハネ修士は突然それをさえぎって、こう言いました。

「そこではまさに料理係でもありました」。

彼は、下手な料理係ではなかったようです。とりわけ、病人たちのために聖なるシチューを準備していた時は。

## おかゆ

丸山知佳子

化学療法の副作用で、何も食べられない日が続いていました。

そんな時、おかゆを炊いて、じゃがいもとにんじんを細かく刻んだものと、お味噌を入れて頂きました。何も受け付けられない私の喉や胃に、おかゆは、ずいぶんと、やさしく、あたたかく、流れ込んでいってくれました。

「おかゆって、こんなに美味しいものだったんだな」と改めて思いました。

温かいおかゆを頂きながら、「人の言葉」ということについてふと考えました。傷ついている人、疲れきっている人、悲しみにくれている人、おびえている人、自分を深く責め苛んでいる人に対してかける言葉について……。私の体が、病気や治療で疲れているように、これらの人達の心も疲れているのではないかしらと思ったのです。

そんな時には、やっぱり、消化の良い、やさしい、あたたかいおかゆのような言葉が良いのではないかなと思いました。どんなに高級食材を使った豪華なお料理であっても、病気の私には、美味しく食べるなど出来ず、ともすれば消化が悪くて吐いてしまうでしょう。同様に、どんなに「正しいこと」や、「立派なこと」を言葉にして語りかけても、心の疲れ果てている人達には、ますます重荷となるだけではないでしょうか？

イエス様を思います。罪人や病人に、重荷となるような言葉は決しておっしゃらなかった主を。「安心しなさい」「あなたの罪はゆるされた」と、ただただほっとさせる、おかゆのような言葉をおかけになったイエス様を。

生きていくそのままだが生かされている私

死んでいくそのままだが救われていく私

新聞紙上にあった仏教関係の広告の言葉です。吸い寄せられるようにして目にとまり、心に深く降りました。

どちらかという身も心も不調、低調で、すべてが少し落ち気味の時だったのですが、この言葉は身に染み入りしっくりと身になじみしました。達観というのでしょうか、深々とした諦念のようでもあり、遥かさへと誘われる希望のようでもあり、何よりも身をゆだねきることの果てのない静かな安心感に包まれます。それでも私がこの言葉に思いを深くした最たるものは、やはりしっくりと身になじむというただひたすら直接的な感覚でした。

あらためて考えてみると、身になじむということは私には大きな価値とも思えることで、生きていくことの計らずしての到達、計らずしての達成ともいうべきものなのです。一体感、合一感とも云えるでしょうか。

ずいぶん昔のことで記憶が定かではないのですが、アーサー・ミラーの「ジェインの毛布」という可憐な絵本が好きでした。

赤ちゃんの時から肌身になじんだ毛布を、何かにつけて大事大事と手放すことができずに、ボロボロになった毛布をいつも引きずって歩く女の子の話でした。これがないと安心できない、これがあれば寂しい時も不安な時もとりあえずは大丈夫というわけです。

母の胎内からの独り立ちのために、私たちはこの身へのなじみがきつとほしいのでしょう。

実を云うと私の息子も幼い頃、夜ひとりで床につく時に必ずお気に入りのガーゼのハンカチを欲しがりました。握りしめたりちゅくちゅくと吸ったり…。

今こうして思い出していると私の方が寂しさに襲われるようで、切なく悲しくいとおしく、ごめんなさいという気持ちでいっぱいになるのですが。

又、かく云う私自身も母からきいた話によると、与えられていた母の手製の人形が古く汚くなったので、新しく買った上等の人形と取り替えようとするのを、いやだいやだと頑として手放さず、見る影もないみずぼらしい人形を抱っこしたりおんぶしたりしていたそうです。

このようなことは私たちの身边にたくさん見聞きすることではないでしょうか。着古したTシャツやパジャマ、履きつぶれたスニーカーやたくたのカバンなど、なぜか決して捨てないのです。



以前（本誌236号）にも書いたことですが、読んだ本も然り、あまりにも身になじみ人生になじんでいて大切に捨てられません。

つい先日も「妻に云われて泣く泣く本を捨てたけど妻の方を捨てればよかった」という新聞投書を読み、大笑いしつつも身につまされたことでした。

身になじむということは、単なる愛着というにとどまらずこの身の分身、人生そのものようにさえなるのではないかと思います。

この度の東日本大震災で、家も家族も仕事場である船もすべてが流されてしまったという漁師さんが「こんなことになったからって海を恨んだりしないよ」と云うのをききました。生まれた時から身に触れて在り、身を包み身を支えた海なのでしょう。わが身と分かつことの不可能ななじみであり、一体であるのでしょう。私は人間の尊いあり方を教えられた気がして、畏敬の念に打たれ心が引きしまるようでした。

自分以外のものを自分の身になじませることは、人間に与えられた優れた営みなのだと思います。

職人さんの手、道具、技、身体、精神、年月の見事な一体は、もう陶酔ともいうほどに私を魅了するのです。

考えを至らせれば人と人との関係もそうではないでしょうか。関わるがゆえの激しい葛藤を必然として、互いは深く浸透し互いの身になじむのです。

だからこそ、かけがえのない互いとして分かつことなくいつまでもひとつであり続けるのだと思います。

主イエズス——。

そのみ名、その人格、その行い、そして私との間に通い合う深い親愛、その一切が、苦しみも悲しみも何ひとつ避けられることなくすべて私の身になじんでいるのでしょうか。ひとつであり続けることができるのでしょうか。

今、夢みるような憧憬をもってじっと想いをこらします。

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 24. 神の僕 イエスのジャック・ビュネル神父 (1900-1945) — その1

1900年1月20日、ルシアン・ビュネルは、フランス、バラントンの労働者階級の家庭に生まれた。五人の兄弟と一人の姉妹がおり、家の手伝いをし、笑いの絶えない、ごく普通の家であった。ルシアンは、優秀な学生であり、皆から尊敬され、優しく、楽しいことが好きで、寛大な人物であると評されていた。

1912年、ルーアンの小神学校に入学。兵役のため、勉学を一時中断しなければならず、1925年に司祭に叙階された。教師、校長、ボーイスカウト団の霊的指導者、そして傑出した説教者でもあった彼は、数々の荘厳な行事に招かれて、話をした。

重い腸チフスを患ったとき、ルシアン神父は修道生活への燃えるような望みを抱くようになった。トラピスト会をまず考えたが、すでに数多くのカルメルの著作に親しんでいた彼は、1927年7月、女子カルメル会で修道女たちと語り合っているときに、カルメル会への召命を感じるようになり、さらに、その後、マリイ・エウジェヌ神父と出会い、カルメル会の理想を聞き、これこそが自分の望んでいたものであることを知った。しかし、大司教が、彼を手放すことを惜しんだので、カルメル会入会までには、その後2年間待たなければならなかった。ついに、1931年8月、カルメル会入会が実現。そこには、彼の望んでいたすべて——平和、孤独、祈り——があった。着衣のとき、修道名として、イエスのジャックという名を与えられた。当時の院長は、「彼の聖性は、閉域を越えて、あふれ出ている」と証言している。1932年、有期誓願宣立。その後、すぐに、アヴォンに小神学校を創立しその校長となるため、派遣された。

翌年の夏、終生誓願準備のためカルメル会修道院に戻り、その次の年に終生誓願宣立、その後、再び、小神学校に派遣された。忙しい日々合間に、森に行き、観想のひとつを過ごすことを好んでいた。このような観想の時を持つことを彼は必要としていたのである。学校は、優秀な教授陣と、一人一人の生徒の尊厳に対して深い関心を寄せる教育のゆえに、有名になっていった。

1938年、チェコへの進軍に際して、従軍司祭として同行、そこでも彼は生涯にわたる友情を築いた。いったんはアヴォンに戻ったものの、再び従軍司祭となり、フランス軍敗退に及んで、ドイツ軍の戦争捕虜として5か月間収容所生活を送ることとなる。ここで、彼の霊性は深められ、チャブレンとして司祭職を行使することもできた。1941年、釈放後、アヴォンに戻り、学校を再開したが、レジスタンスのメンバーとして積極的に働き、また、ユダヤ人の生徒を学校に受け入れていたことを理由に、1944年1月15日、3人のユダヤ人生徒たちとともに逮捕された。

逮捕後、4か所の収容所を転々とさせられたが、どこへ行っても彼は希望と神の愛をもたらし、ひそかに、ミサを捧げ、秘跡を執り行った。与えられた食物がわずかしかなくときでさえ、彼は自分の分を人に譲り、健康を害してまでも、人に与え続けた。1945年5月、収容所から解放されたとき、彼は、最初に食物を与えられ、看護を受けることもできたのであるが、他者に順番を譲り、自分は待つことを選んだ。戦争によって、体力を著しく消耗していたジャック神父は、すでに結核に侵され、体重は34kgにまで減少しており、解放から1か月後の6月2日、安らかに最期の時を迎え、アヴォンのカルメル会墓地に葬られた。

イスラエル政府により「諸国民の中の正義の人」の称号を与えられ、映画『さよなら子供たち』(フランス・西ドイツ共同制作、1987年)に登場するカトリック校校長のモデルとなった。

—— 祈り ——

おお、私のキリストよ  
聖体拝領は  
あなたの愛の神秘、  
靈魂のための命、  
それを理解して、拝領する者にとって、  
確かな救いです。  
ですから、どうか、私の心に  
熱烈で明晰な考えを与えてください、  
私の唇に、熱烈に輝き、光を与える言葉をのせてください、  
私がこのすべての靈魂たちを照らすことができるように、  
彼らのうちに、あなたの神聖なる秘跡に対する愛を  
燃え立たせることができるように、  
そして、彼らの中で、あなたの変容の御業が  
完成されるように。

(1929年、アープルにおける聖体大会において)



神の僕 ジャック神父

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

# いのちの言葉 10月

わたしに従いなさい。

(マタイ 9・9)

カファルナウムの町を出ながら、イエスは、マタイという名の徴税人が収税所に座っているのをご覧になりました。マタイは徴税という仕事のため人々から忌み嫌われ、他人を踏み台にして富を積む高利貸しや搾取者と同じように見られていました。また律法学者やファリサイ人は、マタイを公の罪人と同等に見なしていたので、イエスが「徴税人や罪人の仲間」になり、彼らとともに食事をする<sup>たが</sup>ことを<sup>な</sup>咎めました（\*1）。

しかしイエスは、社会の慣習に逆らって、ご自分に従うようマタイを招き、彼の家に食事に行くことを承諾されました。また、後にエリコの徴税人の頭<sup>かしら</sup>ザアカイに対しても、同様にされました。このような態度をとる理由を問われて、イエスはご自分が丈夫な人ではなく病人を癒<sup>いよ</sup>し、正しい人ではなく罪人を招くために来たことを説かれます。今月のみ言葉も、まさにこのような人々の一人に向けられた招きでした。

わたしに従いなさい。

イエスはアンデレヤやペトロ、ヤコブやヨハネを湖畔で招かれたときにも、このようにおっしゃいました。またダマスコの道では、言葉は違っても同じようにパウロを招かれました。

ただしイエスの招きはそこで終わったわけではありません。何世紀にもわたり、イエスはあらゆる民族・国の人々を、ご自分のもとに呼ばれました。今日もそうです。

イエスは私たちの人生の中を通り、さまざまな場所や方法で私たちに出会ってくださりながら、ご自分に従うよう私たちを新たに招いておられます。

イエスがご自分と共にいるよう招かれるのは、私たちと個人的な関係を結ぶのをお望みだからです。同時に、人類を新たにされる神様の偉大な計画に向かって、私たちがイエスと共に働く者となるよう招いておられます。

私たちの弱さや罪、惨めさは、イエスにとって問題にはなりません。イエスは、私たちをありのままに愛し、選んでくださいます。イエスの愛が、私たちを変え、マタイのようにこたえる力と従う勇気を私たちに与えてくれるでしょう。

イエスは私たち一人ひとりを愛され、おのおのの人生に対してご計画を持っておられます。それぞれの方がイエスから招かれています。私たちは、聖霊の働きを通して、また何らかの状況や私たちを愛してくれる人のアドバイスや指示を通して、このイエスの招きを心の奥底で感じ取るでしょう。イエスの招きはさまざまな形で現れますが、響くのはいつも次のみ言葉です。

わたしに従いなさい。

私もこの神様の招きを感じたときのことを思い出します。

北イタリアの町トレントで、とても寒い冬の朝のことでした。家からニキロ離れたところに牛乳を買いに行くよう、母が妹に頼みましたが、あまりの寒さに妹は行きたがりませんでした。もう一人の妹も同様でした。そこで私は「お母さん、私が行くわ」

と言って、牛乳を入れるピンを持って、家を出ました。すると道の途中で一つの特別なことが起こりました。私にはまるで天が開けたように感じ、神様がご自分に従うよう私を呼んでおられるのを感じたのです。「あなたのすべてを私に捧げなさい」という声が心の中で聞こえました。

このはっきりとした神様からの招きに對し、私はすぐにこたえたいと思いました。聴罪司祭に話をして、終生、神様に自己奉獻する許可を得ました。一九四三年十二月七日のことです。その日私が魂の内に感じたことは、言葉では言い尽くせません。私は神様と婚姻を結んだのです。神様からすべてを期待することができました。

**わたしに従いなさい。**

このみ言葉は、人生の決定的瞬間だけにかかわるものではありません。イエスは毎日こう語りかけておられます。私たちが何気ない日々の務めをするときも、イエスは「わたしに従いなさい」と言っておられるでしょう。また私たちが直面する試練の中、乗り越えるべき誘惑の中、果たすべき奉仕の中でも、イエスは「わたしに従いなさい」と言われるでしょう。

では、具体的にイエスにこたえるにはどうすればいいのでしょうか。

今の瞬間に神様が私たちに求めておられることを果たしましょう。そこにはいつも特別な恵みがあります。

今月は、神様のみ旨に全力を傾ける決心をしましょう。兄弟姉妹を愛し、仕事や勉強、祈り、休息や活動をするときも、自分のすべてを注ぎましょう。

また心の奥底で、良心の声を通しても語られる神様の声に、耳を傾けることを習いましょう。その声は、毎瞬間の神様の望みを私たちに伝え、すべてを後にしてそれを実行するよう、教えてくれるでしょう。

「神様、私たちがあなたを愛せるようにしてください。日を遡うごとに一層愛する、というのでは足りません。私たちに残されているのは、あまりにわずかな日々かもしれないからです。ですから、毎瞬間あなたを愛させてください。あなたのみ旨の中で、心と思いと力を尽くして、あなたを愛する

ことができますように。」

これこそ、イエスに従うための最高の方法でしょう。

キアラ・ルービック

\* 1 マタイ11・19, 9・10-11参照

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2005年6月に発表されたものです

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

★ お知らせ

関東：

Power of Smile

東北支援チャリティーコンサート

日時：10月9日（日）14時～16時

場所：イグナチオ教会（四ツ谷）

1F ヨセフホール

チケット：1,000円

（義援金として被災地に送られます。）

\* 詳細はフォコラーレ・センターまで

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



## << Communications (時事通信) >>

カルメル修道会 拡大総長顧問会 会議

ザベリオ総長のことば、

「神のみ言葉を聴き、聖霊の導きにゆだねましょう」

2011年9月8日 イタリアーローマ発

この日のミサ聖祭は、英語で聖母マリアのご誕生の祝日のために捧げられました。拡大総長顧問会の会議は9時から始められ、総長よりカルメル修道会の現状が報告されました。

総長は、はじめに、ファティマの総会文書“私はあなたのために生まれた”にあるように、提示された行動計画に照らして、「聖テレジア生誕500年記念祭の準備として、聖テレサの著作を通読するというプログラムは、困難と努力を要する私たちの旅路を聖女が導いてくださるよう、テレジアの学校に今一度、根本的に戻るための招きである」とし、次のように述べました。

「今年カルメル会全体として読んでいるイエスの聖テレジアの著書『完徳の道』は、私たちが理想主義でも現実逃避主義でもない道を捨て、私たちのカリズムの生きた体験を遂行するための実践可能な道を見出す判断規準をたゆまずに提供してくれています。“私は幸せですか？”という問いは、私たちが経験を確認しようとするとき決定的となり、テレジアは基本的に、このこと、すなわち”幸せへの道”を私たちに提示しています。

テレジアの三つの大きな徳については、特に”謙遜”が挙げられます。謙遜と従順は、神の偉大なみ業が私達を通じて明らかになるために求められます。もしこの信仰が欠けているならば、私たちは自分の行うことを自分の小さな成果にとどめるだけとなります。さらに、神のみ業はいつも一致と平和をもたらすのに対して、私たちが自分の仕事にのみ集中することは、すべてを自己中心的な視野に閉じ込め、共同体をなおざりにします。私たちは、このようにして自由で自己中心的な主人でいられると思いついていますが、実は幻想に過ぎず、やがて自分の選んだ個人的な道は幸せではないことが判明します。

さらに、謙遜は、世の人々に仕えることを望まれ、世の人々と向き合って生活されたイエス・キリストの周りに集う家族とされた、私たちカルメル会の共同生活の基本となるものです。私たちは、キリスト者、修道者、カルメル会士の召命に招かれた者

として精いっぱいその使命を担い、他者のために生きるというゴールをめざして、悔い改めて行かねばなりません。

権限を委託された役務に召された総ての聖職者は、聖テレサが歩み生き抜いた道を見出す過程において、兄弟姉妹に同伴して行かねばなりません。それには、補い合う二つの重要なことがあります。ひとつは法律に基づく管理的なことで、教会法において長上に委託された実質的な業務を執り行うことです。もうひとつは、司牧的で養成的なことで、こちらのほうが前者より複雑です。それには、個人的かつ共同体的な両側面において彼らに寄り添い、彼らが兄弟愛のうちに祈りと布教に専念できるよう導いていくための決断力と知恵が求められます。

ここでは、規準を適用し、それらを実行することは当てはまりません。私たちは神のみ言葉を聴き、聖霊の導きにゆだねなければなりません。統治することは、私たちのうちにおられ共に生きておられる愛なる神、私たちの真の善を望まれる神、私たちを通して継続してゆく救いの歴史における希望の神のうちにあって、信仰の神学的な実践の場となるのです。

もちろん、私たちは過ちや失敗のために困難や非難に出会い、それゆえに長上が事態を悪化させる試みに陥るようなことになるかもしれません。決断を下すことは常にリスクを負います。管区において準備された同じプロジェクトをすべてに適用することは難しいことです。それは、与えられた立場を失いかねないし、多くの修道者にこれから起こることへの不平、恐れ、批判、不満を残すことになると考えられるからです。

それにもかかわらず、私たち長上の第一の任務は、「真の人間的、靈的成長に適した場所、そこに真実と美の輝きが体験できる共同体を作りなさい」というテレジア主義に従い、それを掲げなければなりません。」

結論として、総長は「この困難な時期に修道家族を管理する役目を担う人々は、テレジアが望んだようにカルメルを認識し、彼女の基本的な直観を実践するようしてください。それは、新しい在り方の総合であり、目に見える印であり、イエス・キリストとの関係を中心にした人々の共同体生活を尊重することです。“まず、テレジアの共同体を求めましょう。そうすれば他のものはもっと与えられます。(マタ6:33)”と締めくくられました。

最後に、総長は、総長顧問会のこの六年間の残りの期間における修道会の運営計画立案に同伴し助けとなるよう、長上たちに対話の時間を提供されました。



# 新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が  
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編  
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ



# カルメル会の企画案内



# 上野毛霊性センター ～ '12年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

11月11日～12日

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

2011年

12月27日(火)夕食～1月5日(木)朝 福田正範神父

## 3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ《いのち》

11月17日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅神父

2012年

1月26日 「永遠のいのち - 霊から生まれた者は霊である -」 中川博道神父

## 4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 カルメル会士

## 5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月25日(金)18時～11月27日(日)15時

## 6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

## 7. 待降節黙想会

12月9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導：古川利雅神父

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません  
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

# 聖書深読黙想会

## 〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

\* 日時：2011年11月11日（金）18時～12日（土）16時  
（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

\* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

\* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

\* 会費：¥7000

\* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

## 木曜黙想会

—いのちであるお方とともに—

私たちはいのちであるお方、父と子と聖霊の三位一体の神との親しい愛の交わりのうちに、ともに生きる様に招かれています。静けさのうちに、私たちを愛される神と共に過ごしませんか？

2011年11月17日（木曜日）10時～16時まで

場 所 : 上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
指 導 : 古川利雅神父（カルメル修道会）  
会 費 : 3,500円  
持ち物 : ノート、筆記用具。



お申込み・お問合せは、ハガキ、FAX、E-mail、TELのいずれかで下記まで。

黙想会名と日程、氏名、年齢、性別、住所、連絡先電話番号、所属教会を明記の上、申込みをお願いします。

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)  
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764  
E-mail mokusou@carmel-monastery.jp

お願い: 申込は間違いを防ぐため、なるべくハガキ、FAX、E-mail でお願ひいたします。  
電話での問合わせは、午前9時から午後4時45分の間にお願ひいたします。

## カルメル青年黙想会

# 「聖霊と恵み」



- 日 時： 11月25日(金)18時～11月27日(日)15時  
場 所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
(東急大井町線上野毛駅下車)  
対 象： 青年男女(35歳迄)  
定 員： 20名  
費 用： 一般 10,000円 学生 7,000円  
締 切： 11月18日(金)〈必着〉  
指 導： 福田正範神父・他カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、  
ハガキ・FAX・Eメールのいずれかで下記まで。  
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
電話 03(5706)7355  
FAX 03(3704)1764  
Email [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



## 勉強会のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



### カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

11月22日	11月25日
12月20日	12月20日*火曜日
1月31日	1月31日*火曜日

### キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

11月8日	11月11日
12月6日	12月9日
1月17日	1月17日*火曜日

### キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》

夜のクラス《19:30~21:00》

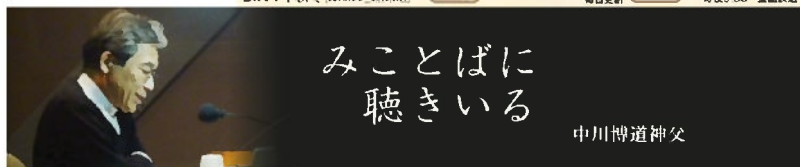
12	11月4日	「キリストに近づく」
13	11月18日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	12月2日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月16日	「キリストと共に生きる道」(1)
16	1月13日	「キリストと共に生きる道」(2)

キリスト教放送局放送中  
ラジオ(月)夜10:15~  
インターネット放送 いつでも

キリスト教放送局  
FEBC  
2011年秋冬(2011.10.2~2012.3.31)

インターネット放送  
www.febejp.com  
毎日更新

AMラジオ放送  
AM1566kHz  
毎夜9:30~全国放送



お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

## 2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

11月19日(土)～20日(日) ユダヤ人の王 新井延和神父

### 【聖書深読黙想会】

#### - 1日黙想 (午前10時～午後4時)

12月10日(土) 新井延和神父

#### - 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

11月 2日(水) 死とは何か 新井延和神父

12月14日(水) 愛の生ける炎 九里彰神父

#### - 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月 3日(土)～12月 4日(日) 松田浩一神父

### 【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

12月27日(火)～ 1月 4日(水) 新井延和神父



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

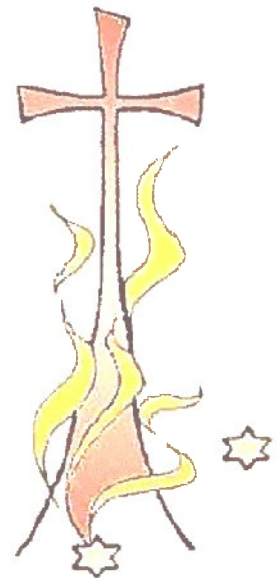
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

### 【参加者人数】 6人

### 【開催日】

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土)  |
| ② |       | 2月18日(金)～19日(土)  |
| ③ |       | 3月25日(金)～26日(土)  |
| ④ |       | 4月15日(金)～16日(土)  |
| ⑤ |       | 5月13日(金)～14日(土)  |
| ⑥ |       | 6月17日(金)～18日(土)  |
| ⑦ |       | 7月22日(金)～23日(土)  |
| ⑧ |       | 9月 9日(金)～10日(土)  |
| ⑨ |       | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ |       | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ |       | 12月16日(金)～17日(土) |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土)  |
| ⑬ |       | 2月10日(金)～11日(土)  |
| ⑭ |       | 3月16日(金)～17日(土)  |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—

「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」

（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第1回	1月10日(月・祝)	混沌の中に差し込む光(創世記1章)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月26日(土)	主が示される地に向かって(創世記12章)	松田浩一神父 (宇治修道院)
第3回	3月12日(土)	絶望の中の光(イザヤ43章、65章)	高山貞美神父 (聖心布教会)
第4回	4月 9日(土)	新しい派遣(列王記19章)	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月 5日(木・祝)	新しい契約(エゼキエル36章)	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月25日(土)	神の国の芽生え(マルコ4章)	三上和久神父 (三馬修道院)
第7回	7月18日(月・祝)	わたしの中に生きるキリスト(ガラテア2章)	ポクダン神父 (南山教会)
第8回	9月17日(土)	キリストの新しい掟(ヨハネ13章)	Sr.パウルナ(宣教カルメル修院)
第9回	10月22日(土)	新しい生活(改革)、アブリラの聖テレジア	松田浩一神父 (宇治修道院)
第10回	11月23日(水祝)	新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ	九里章神父 (宇治修道院)

\* 時間 AM10:00~PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接

\* 参加費 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約30名

\* プログラム

- 10:00~ 祈り・導入・黙想
- 10:30~ 講話(1)
- 黙想・赦しの秘跡または面接
- 11:50~ 昼の祈り・お告げの祈り
- 12:15~ 昼食
- 12:50~ 黙想・赦しの秘跡または面接
- 13:30~ 講話(2)
- 14:45~ ミサ
- 15:30~ 茶話会・分かち合い
- 16:00~ 終了予定

☎ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市中熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市中東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき  
(来る時間も帰る時間も自由)、靈的にだけでなく  
心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min. 聖書朗読と短い講話

14:30～15min. ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min. サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30 終了



各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル靈性センター

〒921-8162 金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院 三上和久神父

TEL 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 2011 「カルメル」 今日の霊性・秋号 特集号



2011 秋 No.342

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

## 特集

### ● 目次 ●

荒れ野を行く道

中川博道 2

キリスト教の歴史から学ぶ  
―悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

川村信三 16

使徒職の現場から

釘宮禮子 29

神のいつくしみの中に生きる  
イエスの聖テレサ

松田浩一 37

暗夜の中を歩む 十字架の聖ヨハネと共に

九里 彰 51

### ● 目次 ●

二〇一一年特集 マリー・エウジェニス (3)

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父  
―人々の渴きに応える

伊従信子 3

使徒となるために  
―祈りと活動の調和を求めて

中山眞里 11

「完徳の道」におけるアヴィラの聖テレジアと離脱 (2)

九里 彰 17

カルメルの霊性の源流を探して (5)  
―その「会則」に見る生活

中川博道 23

修道院生活 春夏秋冬 (3)

高橋重幸 29

私の武器

―幼きイエスの聖テレサが ペトロ・アロイジオ  
一八九七年三月二五日に書いた詩

須沢かおり (1) 44

ナチスのユダヤ人迫害とエディット・シュタイン

須沢かおり (1) 44

大きな愛に出会う

森 みさ 50

愛の断章 (2)

奥村一郎 56

## 購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：  
サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を  
下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号  
【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】  
計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーパー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
マリアの御心会  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2011年予定

- F 1 11/4-9 福岡・黙想の家 (5泊6日)
- N 5 11/15 (火) -10/21 (月) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- K 5 11/28 (月) -12/04 (日) 東京・小金井・聖霊会
- M 4 12/11 (日) -12/17 (土) 兵庫・売布・女子ご受難会

#### 2012年予定

- M 1 01/13 (金) -1/19 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会
- K 1 01/24 (火) -1/30 (月) 東京・小金井・聖霊会
- M 2 02/13 (月) -2/17 (金) 韓国グループ限定 兵庫・売布・女子ご受難会 (4泊5日)
- P 1 02/11 (土) -2/17 (金) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 2 03/02 (金) -3/08 (木) 東京・小金井・聖霊会
- B 1 03/10 (土) -3/16 (金) 千葉白子・十字架イエス・ベネディクト
- M 3 03/23 (金) -3/29 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会
- P 1 04/10 (火) -4/16 (月) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 1 04/27 (金) -5/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム

## 真命山 2011年 — 祈りの集いのご案内

真命山は、次の意向で来訪される方々を歓迎します

- ・ 祈りの時をすごし、静かに内省し、沈黙の中で黙想し、静修し、神のことばを聞く
- ・ 自然の中で自分の信仰の根源を探求する



真命山の一日の流れは、祈りと働きです

### 午前

- ・ 朝の祈り(太陽が昇る時)
- ・ 座禅
- ・ ごミサ



### 午後

- ・ インマヌエルの祈り
- ・ 晩の祈り(日没にあわせて)
- ・ 寝る前の祈り

毎第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集い。  
2011年の祈りの集いテーマは次の通り

### 典礼暦年間を通して教会とともに祈る



1 月 13 日	典礼暦一年の周期
2 月 10 日	聖人の記念日 1
3 月 10 日	四旬節
4 月 14 日	過越の三日間
5 月 12 日	復活節
6 月 9 日	聖霊降臨の祭日
7 月 14 日	聖人の記念日 2
9 月 8 日	聖人の記念日 3
10 月 13 日	日曜日 主の日
11 月 10 日	待降節 1
12 月 8 日	待降節 2

毎月第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集いには、どなたでもご参加いただけます。ご参加希望の場合は、あらかじめ電話・ファックス・メールでお知らせください。

### 指導者

フランコ・ソットコルノラ神父  
(真命山院長)  
ダニエレ サルティ・サルトリ  
神父  
Sr. マリア デ・ジョウルジ

### 申し込み先

865-0133  
熊本県玉名郡和水町1391-7  
真命山諸宗教対話・霊性交渉センター  
TEL 0968-85-3100  
Fax 0968-85-3186  
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
(要予約)

## ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

## ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

## ●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の  
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の  
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。  
冬学期: 中世のスコラ学・神秘思想(11-15世紀) 11/12、11/19、12/03、12/10、01/07、1/14、  
01/21、01/28

## ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分  
木曜日 18時～20時30分  
(祝日、4月21日を除く)  
場所: 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋  
3回坐り、間に講話があります。  
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

## ●接心

秋川神冥窟 1泊2400円程度  
関東  
11月02日(水):20時30分-11月6日(日) 10時

## ●ミサ 水曜日 17時10分-18時

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

## ●ミサ後の黙想

18時-18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

## ●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分-16時 上智大学内SJハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
11月12日、12月3日、  
2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分  
クルトウルハイム1階右小聖堂

## ●黙想

【会社帰りの黙想】  
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。  
但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。  
【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日  
10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

## ●黙想会

11月26日(土)10時-27日(日)15時(東村山)、  
2012年 2月4日(土)10時-5日(日)15時(東村山)  
\*1泊5900円程度

## ●アガペ会

2012年 1月21日(土)  
説明会・集い(13時半～): 上智大学内S.J.ハウス第5会議室  
ミサ(17時～): クルトウルハイム1階テレジア聖堂

## ●クリスマス会

12月17日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)、18時岐部ホール4階。要申し込み。  
クリスマスのミサ  
12月23日(金) 14時- 上智大学内クルトウルハイム聖堂(80人限定)。



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

### リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/04 休み  
11/11 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧  
11/18 自己実現と神の意志— 生き方の規範  
11/25 人間の弱さ— 罪とは何か  
11/26-27 黙想会(東村山)  
12/02 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける  
12/09 愛の心— キリスト教の本質  
12/16 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う  
12/17 クリスマス・パーティ(16時30分マリア中聖堂[予定]、18時岐部ホール4階)  
12/23 クリスマスのミサ(14時、上智大学内クトゥルハイム2階、80人限定)
- 01/06 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む  
01/13 霊の動き— 福音による生き方  
01/20 聖書と教会— 信仰の基盤となる言葉  
01/27 秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰  
02/03 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方  
02/04-05 黙想会(東村山)  
02/10 結婚と独身— 愛の道  
02/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている



### リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

#### 日常生活

- 11/01 対人関係と協力— 恵みである他者  
11/15 身体と生命— 性と倫理  
11/26-27 黙想会(東村山)  
11/29 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見  
12/06 仕事と余暇— 能力の活性化と人生の実り  
12/17 クリスマスのミサとパーティ  
(16時30分マリア聖堂[予定]、18時岐部ホール4階、要申し込み)  
12/20 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼  
12/23 ミサ(14時、上智大学内クトゥルハイム2階)  
01/17 教会生活とミサ— キリストの体の神秘  
01/31 秘跡の恵み— たえざる回心とキリストのいのちの深まり

#### 信仰の実現

- 01/17 教会生活とミサ— キリストの体の神秘  
01/31 秘跡の恵み— たえざる回心とキリストのいのちの深まり  
02/04-05 黙想会(東村山)  
02/07 祈りの本質と靈的読書— 神との心の交流  
02/21 日常に活かされる靈性— 活動における観

#### 《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

11月12日(土)  
12月 3日(土)

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)・3594・2247  
Fax(03)・3594・2254  
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com  
ホームページ  
<http://www.ndv-jp.org/>

講話 伊従信子  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

## マリアの御心会

# 「来て、見なさい」

### 「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに—  
祈りと分かち合い

テーマ：イエスの癒し 9/4(日)  
：イエスの許し 10/9(日)  
：私の委ね 11/13(日)  
：私の選び 2012年1/29(日)

時間：14:00～17:00 \*ミサはありません。

対象：自分の道を探している  
35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR 信濃町下車3分)

会費：各回 500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：電話 03-3351-0297 締切り 2 日前

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel: 077-579-7580  
Fax: 077-579-3804  
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：  
A. 8日間の個人指導による黙想  
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。  
⑦ 11月14日(月)～11月22日(火)  
⑧ 11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)  
その他 若干名
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。  
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

### 神を信じて生きてみる

神の義を探す  
神よ、私は正しく生きていきたいのです

2011年 召命黙想会

日時 **12月10日(土) 15:00～**  
**11日(日) 15:30まで**

場所： ノートルダム唐崎修道院  
(JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束神父(御受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000円

締切： 12月4日(日)

申込み・問合せ

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel: 077-579-2884 Fax: 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## \* 年間購読のご案内 \*



来年の1月から12月までの『霊性センターニュース』  
一年間の購読のお申し込みを受け付けいたします。  
年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。  
これには11回分の送料（8月休刊）が含まれます。

申込受付期限：12月20日まで

来年1月以降のお申し込みは、  
翌月から12月までのお申し込みとなります。  
（例：1月申込の場合は、2月号～12月号）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

## 『霊性センターニュース』 郵送ご希望の方

### 左記の年間購読の御案内を御覧ください！

ご希望の月数分×250円（郵送代込）を現金で送ってください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

\* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください \*

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

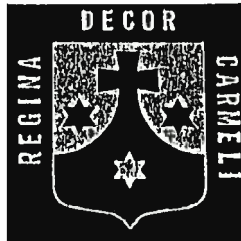
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

### 編集後記

東日本大震災、台風や洪水等、今年は大きな災害が次から次へと起こり、多くの方々が亡くなられた。肉親や友人、親しかった人々との別れは、私たちに、まさに断腸の思い、はらわたがちぎれるような悲しみを引き起こす。今なお、突然襲った死を受け入れられず、その喪失感にさいなまれている人々も多いのではなかろうか。心の支えとなっていた人との別れは、後追い自殺を誘発しかねない。

だが、亡くなった人々は、物が消滅するように無くなってはいない。生み育ててくれた両親や苦楽を共にした伴侶、共に育った兄弟姉妹や成長を見守った子供たち、折々に助言してくれた叔父叔母や恩師、人生を語り、悩みを分かち合った友… 彼らは皆、今なお生きている。

たしかに物理的にはもはやこの世で彼らに会い、その姿を見、その声を聞くことはできない。お墓を掘り起こしても無駄だ。しかし、彼らは今も生きていて、信仰を通して、絶えず私たちと交わっているのである。さもなくば、諸聖人に祈ることに何の意味があるのか。彼らは聖書や書物の中の存在にすぎなくなる。そもそも私たちの信仰とは、今なお「イエスは生きておられる」ことを信じることでなかったか。あなたにとって、キリストは、今どこにおられるのか。 (P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「12月号」製本日 11月29日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
(11月は第5週です) 午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171